

# 学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **74** 2020  
November

Special Feature

理事長・学長からの  
メッセージ vol.17

MBTコロナ対策  
「3感染ルート遮断」実施中

MBE・MBTの社会貢献の考え方

人を知る学校です。人も住む「まちづくり」にも、その知見が不可欠なのです。  
「製品・サービス」や「まち」をつくる前に、人を知りましょう。  
奈良県立医科大学 総合研究所と 総合コンソーシアムは企業等の皆様  
に医学知能を提供し、医学的に正しい「ものづくり」を通して、  
イノベーションを起こすことによって、社会に貢献します。

細井裕司

MBE Medicine-Based Engineering. 医学を基礎とする工学・産業創生  
MBT Medicine-Based Team. 医学と連携するまちづくり



# Contents

## 特集

理事長・学長からのメッセージ vol.17	3
MBT コロナ対策「3 感染ルート遮断」実施中	4
新型コロナウイルス感染症に対する平時の取り組み	4
ローマ法皇庁にて講演	5
叙勲伝達式を行いました	5
令和元年度計画の業務実績に関する評価結果	6
研究紹介	8
MBT 研究所だより (第 18 報)	10
図書館だより	11
国際交流センターだより	12
看護部の紹介	13
先端医学研究支援機構だより	14
未来への飛躍基金だより	15
本学における ESCO 事業について	15

## Campus News

The Virtuous Cycle: 奈良県立医科大学で「人を思いやる心とコミュニティ精神」を育む文化がどのように育成されたか	16
MBT について取材を受けました	17
MBT 特命教授の称号式を挙りました	17
新型コロナ不活化の試験やコロナ対策・企業相談を推進!	17
看護学科オープンキャンパス 2020 を Web 開催しました	17
MBT 発熱外来と 3 感染ルート遮断の取り組みを進めます	18
薬局で「MBT からだ測定会」を開催しました	18
自衛消防・防災隊訓練を実施しました	18
MBT コロナ対策企業相談 HP を開設しました	18
第 19 回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議に参加しました	18
北海道沼田町と MBT 包括連携協定書の交換を行いました	19
柿渋のコロナ不活化研究成果を発表しました	19
奈良先端大との連携活性化委員会を開催しました	19
MBT 発熱外来ユニットが完成しました	20
柿渋の共同開発事業やコロナ対策・企業相談を行っています	20
MBT 研究所が 3 感染ルート遮断の新型コロナ対策を支援しました	20
実験動物慰霊祭を執り行いました	20

## Winner Report

欧州消化器腹部放射線学会 (ESGAR) において Recommended poster を受賞しました	21
第 61 回日本臨床細胞学会春期大会で会長賞を受賞しました	21
第 21 回日本検査血液学会学術集会にて優秀演題賞を受賞しました	21
第 5 回日本がんサポーターブケア学会学術集会で優秀演題賞を受賞しました	21
バイエル循環器病研究助成を受賞しました	22
第 49 回日本 IVR 学会総会 Featured Abstract Award	22
第 22 回 IREF で Special Award を受賞しました	22
日本神経化学会奨励賞を受賞しました	22
第 27 回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	23
第 9 回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	23

## 寄附者ご芳名

## Information

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	23
令和 3 年度入試日程【医学部】	24
メディア掲載情報／編集後記	24

私は、奈良医大が「主たる大学」として存続することはもちろん、日本を代表する特別な医科大学になる決意を持って大学運営を行っています。本号においても、奈良医大が存在感を発揮した話題を提供します。

## 新型コロナウイルス対策について奈良医大が行った全国・世界への貢献

前号で紹介しましたように、奈良医大は全学を挙げて新型コロナウイルス対策に取り組むため、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、そのもとで4つの部会「病院部会」「教育・研究部会」「先端研究部会」「記録部会（NHK との共同事業）」が活動して参りました。奈良県の医療を守るための病院部会の最前線の活動は、NHKプロフェッショナルやNHKスペシャルで全国放送されました。新型コロナウイルス感染症対策の初期段階から、NHKの記者1～2名が奈良医大に常駐し、2ヶ月半に亘って収集した記録は膨大で感染症対策を考える上で世界的にも貴重な記録となるでしょう。

また、微生物感染症学講座とMBTコンソーシアム会員企業が協力して、「世界で初めてオゾンによる新型コロナウイルスの不活化を確認、世界で初めてオゾンによる新型コロナウイルス不活化の条件を明らかに」し、多くのマスコミに取り上げられました。次いで、免疫学の伊藤教授の「柿渋がコロナウイルスを不活化する発想」を矢野教授らが証明され、テレビ・新聞、Yahoo! JAPANのトップページ等で大きく報道されましたのでご存知の方も多いと思います。現在、柿渋のコロナ不活化効果を早期に製品化して世界の人々に貢献できるよう、MBTコンソーシアムと協力しながら取り組んでいます。

## 新型コロナウイルス対策についての本学の基本方針

9月7日開催の新型コロナウイルス感染症対策本部会議において「新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、3密（密閉、密集、密接）の回避だけでは不十分であり、『3つの感染ルート（接触、飛沫、エアロゾル）の遮断』を重視して取り組むことを本学の基本方針とする」と決定しました。

これを受けて、本学附属病院で実施の準備をしています。この奈良医大の基本方針を全国に広げるべく、MBTコンソーシアム会員企業の協力を得て、奈良医大附属病院内ドトールコーヒーショップ、大和リゾートホテルTHE KASHIHARA、クオール薬局梅田ガーデン店で「3感染ルート遮断」の体制を整えていただきました。実施店にお越しいただきますと、withコロナの時代の店内をご覧いただくことができ、他店との相違がわかりいただけると思います。

引き続き皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



奈良医大・MBTコンソーシアムが提唱する「3感染ルート遮断」を重視した新型コロナウイルス感染症対策の実践。全テーブルに消毒液と除菌シートを配置し、お客様自ら手指消毒やテーブル消毒ができる環境を提供しました。（奈良医大附属病院内「ドトールコーヒーショップ」）

# MBT コロナ対策「3感染ルート遮断」実施中

本学及びMBTコンソーシアムでは、新型コロナウイルス感染症予防として、「3密回避」に加えて、より本質的な「3感染ルート遮断」を提唱し、対策を実施しています。

コロナ感染対策は「3密」を避けるだけで十分ではありません。換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面、の「3密」を避ける行動が新型コロナ感染対策とされていますが、感染拡大が続いています。

「3感染ルート」とは「接触」「飛沫」「エアロゾル」です。これらの感染ルートを遮断する事が感染拡大の防止につながります。例えば、3感染ルート遮断の環境整備としては、以下の例が挙げられます。

## 「接触」感染対策

接触感染を防ぐため、常に手指消毒が行えるように消毒薬を設置する。

## 「飛沫」感染対策

飛沫の原因となる大声を出すことのないよう、できるかぎり静かな環境づくりを行う。

## 「エアロゾル」感染対策

「換気の悪い密閉空間に当たらない。」とされる必要換気量1人あたり30m<sup>3</sup>/h以上の換気を行う。

本学及びMBTコンソーシアムでは、上記の考え方に基づくコロナ感染対策を基本に企業等の相談に応じ、実践していただける企業等には、ポスターやステッカーを掲示いただいています。院内のコーヒーショップでも実践していただいております。

コーヒーショップでは、入り口はもちろん、各テーブルや金銭の受け渡し箇所に手指消毒薬の設置がされています。

今後も、MBTのコロナ対策として、「3密回避」に加えて、より本質的な「3感染ルート遮断」を実践していきます。



院内のコーヒーショップ

# 新型コロナウイルス感染症に対する平時の取り組み

感染症センター長 笠原 敬

皆さんは「クラスター」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。もともとは「かたまり」「集団」「群れ」といった意味で、新型コロナウイルス感染症においては5名以上の集団発生のことをクラスターと呼んでいます。奈良県でも病院や福祉施設、運送会社や学校などでクラスターが発生しました。そこで、本学は奈良県からの委託を受け、新型コロナウイルス感染拡大防止事業を開始しました。これはクラスター発生防止のための教育ツールの作成、現場訪問指導や研修会の開催に加え、実際にクラスターが発生しているか、発生しそうになっている施設を即時訪問し、それ以上感染が拡大しないように指導を行うものです。新型コロナウイルス感染症ではクラスターが発生した時だけマスクなどに上げられ、叩かれるという構図をしばしば見ます。そこで私達はこのような「予防活動」をしっかりと行い、またそれを県民にも安心していただくためにアピールしていきたいと考えています。



病院での現地指導の様子



福祉施設での研修会の様子

# ローマ法皇庁にて講演



岐阜大学名誉教授 兵庫医科大学客員教授 昭和49年卒業 高橋 優三

私は、今年2月、ローマ法皇直属の科学アカデミーから招待を受け、バチカンの聖職者に講演を行いました。法皇庁は毎年、科学者を招待し話を聴いて教義の参考にしており、その源流はガリレオガリレイが地動説を講演して対立した400年前に遡るとの事です。50年前、奈良医大の哲学の講義で「それでも地球は動く」の話を聴いた時は自分と縁の無い話、うわの空でした。人生の最終章で、このような歴史的な場で講演の機会が与えられるとは夢にも思っておりませんでした。

今年の勉強会は人工知能(AI)に関するテーマで、開催は3日間。招待された演者は12名。マイクロソフト社長、IBMの副社長、EUの大統領などはAIの倫理について講演しました。医師は3名で、2名は基礎医学のAI利用について、私はAIが医療に及ぼす影響について私見を述べました。「医療は法律や契約に基づくのではなく信頼関係で行われるべきであるが、AIは医師患者の信頼関係を変えてしまう。その防止策」が骨子です。私としては当然の事を言っただけの気持ちでしたが、先進

国の医師が法律よりも信頼関係に重点を置いた事は、バチカンにとって新鮮な驚きだったようです。最近、バチカンはコロナによる医療崩壊で、限られた医療資源を誰に振り分けるかについて声明を発表しましたが、その中に私の講演の一部が組み込まれています。これも奈良医大の同級生から受けた影響、ジョンズホプキンス大学客員教授時代に培った異文化理解、地域医療を担っている先生方からの薫陶などが混合した講演の成果です。諸先生方に感謝申し上げます。

会が始まる3日前から急激に拡大したコロナ騒動の影響を受け、予定されていた宮殿でのローマ法皇との謁見や晩餐会など儀式が急遽中止になってしまいました。

今回、バチカンの奥深くの様子を知り、キリスト教が持つ巨大な力に驚愕しました。もはや人類の歴史を最初からやり直さない限り、誰も真似ができません。もし、今回のようなバチカンとの交流を若い時期に経験していたら、私の考え方や生き方は、もっと違ったものになっていたと思います。

## 叙勲伝達式を行いました

叙勲は、国家または公共のため功労のあった方を対象に授与されています。

令和2年4月29日に令和2年春の受章者の発令があり、前理事長・学長の吉岡章氏が瑞宝中綬章を受章されました。



新型コロナウイルス感染症の影響で遅れていた勲章の授与があり、細井理事長・学長から8月3日に伝達させていただきました。

瑞宝中綬章の受章、心からお祝い申し上げます。

# 令和元年度計画の業務実績に関する評価結果

第3期中期計画の初年度にあたる令和元年度計画の業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

第3期中期目標では、第2期中期目標の成果や課題を踏まえて体系を見直し、「地域貢献」、「教育」、「研究」、「診療」、「法人運営」の5つの柱立てのもと価値目標を掲げ、それぞれに具体的な実現目標が定められています。

令和元年度計画は、「順調に実施している」と判断され、中期目標・計画の達成に関して、全体としては「順調に進んでいる」と評価を受けました。

令和2年度は、第3期中期計画（令和元年度～令和6年度）の2年目にあたります。第3期中期目標・計画の達成に向け、引き続き皆様のご理解と積極的なご参画をお願いいたします。

## 令和元年度 評価結果の概要

### 全体評価

中期目標で掲げる7項目（Ⅰ.地域貢献＜教育関連＞、Ⅰ.地域貢献＜研究関連＞、Ⅰ.地域貢献＜診療関連＞、Ⅱ.教育、Ⅲ.研究、Ⅳ.診療、Ⅴ.法人運営）のうち、「地域貢献＜研究関連＞」及び「研究」については、「中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある」、「地域貢献＜教育関連＞」及び「地域貢献＜診療関連＞」については、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」、その他の項目については、「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と評定し、年度計画で定めた事業を順調に実施していると判断した。

令和元年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に関して全体として順調に進んでいると認められる。

上記のほか、奈良県立医科大学附属病院は、新型コロナウイルス感染症患者を重点的に受け入れる重点医療機関として、多数の専用病床の確保、重症患者の受入をはじめ、他の医療機関や福祉施設への助言など、県の新型コロナウイルス感染症対策へ積極的に貢献している。

### 項目別評価

#### Ⅰ. 地域貢献【教育関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇へき地の医療機関や特定の診療科等に従事する医師の養成・確保を目的として、奈良県が修学資金の貸与を行った学生である県費奨学生の義務履行の理解と離脱防止のため、ランチミーティングを実施し、初期研修医、担当教員が初期研修の現状や魅力等を話し、キャリアパスについての情報交換を実施した。など

#### Ⅰ. 地域貢献【研究関連】

年度評価：Ⅴ（中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある）

注目される取組（評価の高い事項）

◇市町村の「健康増進計画」の立案や見える化支援として、中和保健所管内市町村の「健康増進計画」の中間評価や見える化への助言・指導を行ったほか、田原本町の「第2次健康たわらもと21等後期計画策定のためのアンケート調査」の実施および分析を助言するなど、県・市町村の保健事業にかかる調査のデータ分析や指導・助言を行った。など

#### Ⅰ. 地域貢献【診療関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇e-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立について、県、消防、附属病院出席の「救急搬送及び医療連携協議会の分類基準・重症度部会」で検討するなどし、中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合が1.81%と大幅に減少した。など

#### Ⅱ. 教育

年度評価：Ⅲ（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇「医師・患者関係学」を導入し、医療行為に不可欠な「医師－患者関係」について医師と患者双方の視点を織り交ぜながら実践的な教育を実施した。など

### Ⅲ. 研究

年度評価：Ⅴ（中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある）

注目される取組（評価の高い事項）

◇奈良先端科学技術大学院大学との共同研究を発展させるため、双方の大学から構成した連携活性化委員会を設置した。また、研究者共同発表会を開催し交流を深めるとともに、より連携研究活動の活性及び充実を図るため、共同研究助成事業を開始した。 など

### Ⅳ. 診療

年度評価：Ⅲ（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇臨床指標の要改善項目について担当部署に改善を促し、モニタリングを実施した結果、全3項目の改善を達成した（先進医療の件数、褥瘡発生率、指導医数）。 など

課題

◇認定看護師の資格取得者は1名の増加となり、目標（3名増加）を達成できなかった。

### Ⅴ. 法人運営

年度評価：Ⅲ（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

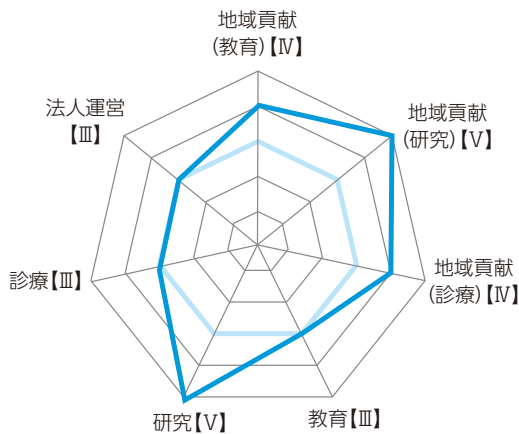
◇教職員の年次有給休暇取得を促進させるため、管理者が計画年休付与を行えるよう規程を改正した。 など

課題

◇令和元年度末時点の繰越欠損金が3,002百万円と、目標の2,776百万円よりも226百万円多い結果となった。

◇目標である、既存の教育開発センター、臨床研修センター及び看護実践・キャリア支援センターを統合した医療人育成センターの設置に至らなかった。

## 令和元年度 評価結果



すべての項目において、Ⅲ（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる）以上の評価を受けました。

#### 【項目別評価】

- Ⅴ：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- Ⅳ：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
- Ⅲ：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる（※標準値）
- Ⅱ：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- Ⅰ：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

#### 奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
今中 雄一	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 教授
◎垣内 喜代三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 理事・副学長
竹田 幸博	一般社団法人 日本呼吸器学会 事務局長
任 和子	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 生活習慣病看護学分野 教授
堀 正二	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 名誉総長

（五十音順 敬称略 ◎は委員長）

## CLINICAL QUESTIONからの出発

胸部・心臓血管外科学 谷口 繁樹



私が6年生の時に本学に心臓血管外科を担当する講座ができICUも開設された。それ故私は心臓血管外科学に関しては、系統だった講義も臨床実習も受けることのないまま心臓血管外科学の道を志した。当時はその患者さんの心疾患が外科的治療で修復できるものであり、そしてその修復がしっかりとなされたならば、その患者さんはその後少なくとも心臓に関しては、心不全などでQOLの低下を招くことはないだろうと思っていた。しかしその後自身が手術を担当するようになり術後経過観察する患者さんが増加すると、これまで思っていたことは必ずしもそうではないことを思い知らされた。次第に解像力が向上しつつあった心臓超音波検査などで評価してみると、手術での修復はしっかりとされているにもかかわらず、心機能の改善が見られなかったり、或いはむしろ低下してくる患者さんがいることが分かった。

## 手術後のこと

外科的治療介入で修復された箇所没有问题にもかかわらず、何故心機能が改善しなかったり心不全を発症したりするのか。この問題について検討するために、現在本邦における主たる心臓弁膜症であり、治療介入の結果が比較的評価しやすい大動脈弁狭窄、僧帽弁閉鎖不全に対して、それぞれ大動脈弁置換術、僧帽弁修復術を施行した患者さんの手術前後の心機能に係る指標を検討した。その結果大動脈弁置換術後の患者さんでは、術前の肺動脈キャパシタンスがどの程度維持されているかが術後のQOLに大きく係ることを示すことができた。このことは術前すでに肺動脈キャパシタンスが低下している患者さんでは、術後大動脈弁狭窄が解除されても肺動脈圧が上昇し右心不全を引き起こす可能性がある。このことが結果としてQOLの低下に繋がる。一方僧帽弁修復術後の患者さんでは、術前の容量負荷に伴う左心房、左心室の拡大は術後確実に改善する。しかし機能的改善は不十分であり、特に左心房の機能は左心室の拡張機能障害を呈する心臓の左心房の機能と類似したものであった。つまり術後の左心房、左心室における構造的改善と機能的改善との間に乖離があることが示された。このような左心房の機能異常は、今後肺動脈キャパシタンスの低下を引き起こし更に右心不全によるQOLの低下に繋がる可能性がある。心臓疾患に対する外科的治療の介入で、長期的な見

地から確実に改善できることと、そうではないかもしれないことは未だ明らかにはされていない。

## 手術中のこと

心臓血管外科領域の手術は侵襲度の高い手術である。体外循環の使用、大量輸血などがその象徴とされる。近年になり低侵襲治療は注目を集めており、ロボット手術の件数も増加しつつある。心臓血管外科領域においてもこの機運は高まりつつある。体外循環を用いない手術、低侵襲手術、ロボット手術が行われているが、一般的に低侵襲手術やロボット手術の方が体外循環時間が長い傾向にあり、個々の患者さんの手術侵襲の程度をどのように評価するかは困難な問題である。そこで我々は生体が何らかの侵襲を受けた際に、その侵襲の程度に応じて分泌されるストレスホルモンの一つであるバソプレシンに着目した。しかしバソプレシンは速やかに代謝を受け不安定なため、それと等量分泌される比較的安定したバソプレシン前駆体のコペプチン濃度を、通常的心臓手術を受けた患者さんで追跡調査した。臨床的に経過良好な患者さんではコペプチン濃度は術後一日目に最高値に達し、一週間で術前レベルに復することが確認できた。今後低侵襲手術と考えられる術後の患者さんにおいて同様に調査を行い、侵襲度の相違の有無を検討する必要がある。

科学分野における基礎研究の重要性は言うまでもない。医学もやはり科学の一分野でありそのことは例外ではない。医学においてはその基礎研究の優れた成果が、さらにトランスレーショナルリサーチを経て臨床応用にまで発展できれば素晴らしいと思う。そしてその最初の基礎研究の出発が、自身の日常臨床の経験の中から生まれたclinical questionによるものだとしたら臨床医として望外の喜びであろう。



## 私の研究事始め



精神医学 岸本 年史

いよいよこの3月に本学を去ることになる。私が入局した1981年当時の精神医学教室は学園紛争の名残で、研究はなされず、教室員は教授も含めて3人で臨床に忙殺されておられた。慈恵医大から赴任された井川玄朗教授は、阪大から平井基陽先生、小西博行先生を迎え、われわれ4人が入局して医局員は9人となった。研究の始めは試験管やピペットを揃えることだった。液クロを購入していただき、小西先生の指導を受けて統合失調症患者の病態とノルアドレナリン代謝物 MHPG の変動についての研究で神経化学の基礎を叩き込まれた。臨床研究棟で、夜間に温浴させながら、検体のエタノールを1本ずつとばした。現在も同じだと思うが、研究に集中できるのは夜間だった。1983年の生物学的精神医学会(津)が最初の学会である。翌年の3月に同学会(東京)でMHPGの分泌動態について発表したが、された質問は今でも鮮明に覚えており、中枢をどう見るのかがテーマとして常にある。

入局2年目から毎金曜日、当直に信貴山病院に出かけた。国鉄のディーゼルで畷傍駅から王寺まで乗って、病院は山の腹にあったので、そこから迎えの車で上がった。国鉄沿線はのどかで、車窓から雉を近くに見ることもあった。当直中に水中毒という病態に出会った。統合失調症の入院患者が、尋常でない量の水を飲んだ後に極端な低ナトリウム(Na)血症を呈し、痙攣を惹起し、時には死に至る病態である。アルツハイマー病の治療薬としてバゾプレッシン(VP)が目ざされていたこともあり、水中毒の発症機序についてVPの研究をすることにした。平井先生の指導のもと、研究室に動物舎を作り、採血のしやすい兎で動物実験を始めた。また京都府立医大(中嶋照夫教授、橋本泰道講師)に通い、VP抗体の作成に従事し、VPをradioimmunoassay(RIA)で測定した。抗精神病薬長期投与のVP値への影響を兎で調べて発表し(神経化学会、熊本、1985年)、ついでVP分泌動態を患者で測定し検討した。自分の車に遠心分離機をつんで夜間に精神科病院に伺い、当直の教室員を助手に、患者から採血した。1987年に神経化学会(東京)で発表したが、赤坂プリンスホテルに泊まり夜に遊んだ記憶はあるが、学会の記憶は乏しい。同じ頃、水中毒の本態である低Na血症の疫学を県下の精神科病院の全入院患者について調べた。こうして、疫学、動物実験、臨床研究とまとめ、1988年にミュンヘンであった国際神経精神薬理学会で発表し

てきた。井川教授が留守番をされ、私と平井助教授と二人は夏休みも兼ねて、ミュンヘン、ハイデルベルグ、バーデンバーデン、ウィーン、ベニス、パリ、ロンドンと回ってきた。良き時代であった。この仕事で学位をいただいたが、当時は単著で奈良医学雑誌に載せるのが慣例で、学位の主査は井川教授、副査は榎泰義第二生理学教授、黒河内寛薬理学教授で、黒河内先生の部屋で、ロイヤルサルートという高級ウィスキーを SHIPPINGしながら、一字一句論文の執筆をご指導いただいた。濃密で家族的な大学だった。

1993年UCSF精神科に留学したが、ボスと合わず、同じ精神科で研究室を替わり、日本で見つけていたDRPLA家系の分子遺伝学的研究を行った。米国の人類遺伝学会で発表した(モントリオール、1994年)。連鎖解析と関連研究について学べたことと、教室運営について、米国のシステムを覗いたことは教授になって生かせたと思っている。

1996年入局15年で教授に就任し、この25年間、満身の力をふるって臨床・教育・研究に打ち込んできた。研究ではRIAの手法に疑問を持っていたので、神経の活動を見るために電気生理のグループから作った。基礎と臨床を橋渡しする研究を志し、大学の基礎の研究室には多大な協力をいただき成果をあげている。2003年にジョンズホプキンス大での日米脳科学セミナーの講演と、ニューオリンズでの北米神経科学会に参加した。その展示でLazer-Microdissectionを初めて見て、このような機器を用いて研究できる教室にしたいと思った。2018年にはその機器を購入し、細胞小器官レベルの研究を行っている。2020年には精神科病棟に3T-MRIを設置していただき、国際的な脳研究に参加できる体制を整えて未来に投資している。また、その時々に応じて課題をいただき、厚労科研やAMEDなどから、主任研究者として「要介護老人の実態に関する国際比較研究」「介護保険における痴呆患者のケアの実態と評価に関する調査研究・広報啓発事業」「精神障害者喫煙禁煙総合対策事業」「精神医療機関における外国人受け入れの現状と課題把握に関する調査」、分担研究者として「自殺対策のための戦略研究」「児童・思春期における心の発達・成長支援に関する研究」などを行ってきており、日本の精神科医療に貢献してきたと自負している。今後も教室は患者や家族が希望を持てる研究を継続するものと確信している。

# MBT研究所だより (第18報)

## 1. MBT コンソーシアム感染症部会 各分科会の最近の主な進展

### (1) MBT コロナ対策・企業相談分科会

MBT コロナ対策・企業相談分科会では、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について、3密（密閉、密集、密接）の回避だけでは不十分であり、「3つの感染ルート（接触、飛沫、エアロゾル）の遮断」を重視するという方針で感染対策の相談に対応しております。また、イベント等を開催して良いか、見送るべきかという相談も多いのですが、ウィズコロナの時代において、イベント等の方法を抜本的に見直すことができないかという視点からのアドバイスも行っております。本分科会に対する相談は、個別企業から業界団体、地方自治体、官庁まで広がっており、「ニューノーマル」の確立を支援すべく務めております。

### (2) MBT 感染症外来分科会

MBT 感染症外来分科会は、感染が疑われる外来患者を一般外来と切り離して診察ができる「MBT 発熱外来ユニット」を検討し、奈良県や病院関係者に提案したところ、5月には西和医療センターに「発熱外来クリニック」が開設されました。さらに9月には奈良市と（一社）奈良市医師会が奈良市医師会館駐車場敷地に「MBT 発熱外来ユニット」を開設しました。



奈良市医師会館駐車場敷地「MBT 発熱外来ユニット」

### (3) MBT コロナ不活化分科会

MBT コロナ不活化分科会は、世界で初めてオゾンガス曝露による新型コロナウイルスの不活化を確認しました。また、その不活化の条件を明示することにより実用性を学問的に示しました。この情報を得た全国の企業約90社から、自社保有の技術や商品について、新型コロナウイルス不活化に関する評価、共同研究の申し入れが、微生物感染症学矢野寿一教授、中野竜一准教授の元に寄せられております。

## 2. 北海道沼田町との連携

9月10日、沼田町暮らしの安心センターで、MBT 研究所、MBT リンク（株）、北海道沼田町は、MBT 構想による地域活性化と人材育成及び学術の振興に寄与することを目的に包括的な連携協定を締結しました。具体的には、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯を対象に「血圧・心拍・体重・体温」などを計測し、自身の気づきから健康づくりを応援します（自立支援）。また、そのデータを遠方の家族と共有することで、見守り機能の強化を図ります（データのつながり）。コロナ収束後であっても家族の見守り（情報のつながり）や地域コミュニティ（人のつながり）により、住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みをつくることとしております。（図）



協定書の交換式の模様

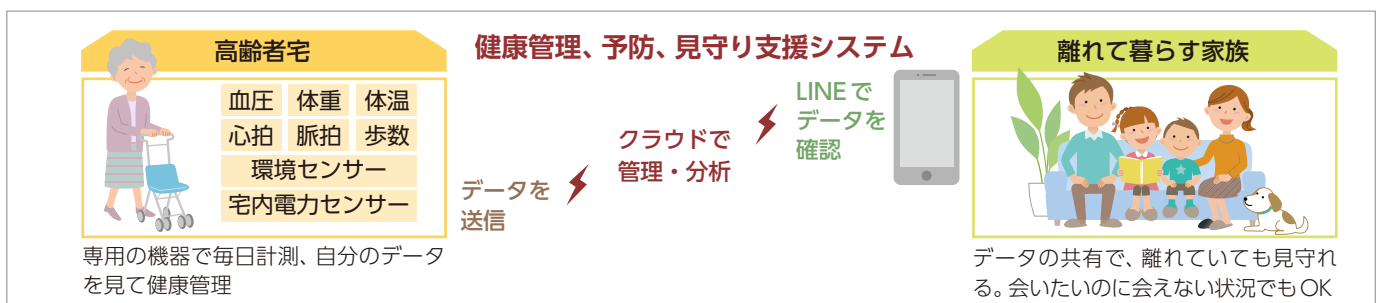
## 3. MBT の広報

### (1) 奈良医大の新型コロナ対応活動のNHK 総合テレビでの紹介

7月26日のNHKスペシャルと7月28日、8月3日（再放送）のプロフェッショナルの3回にわたり、奈良医大における新型コロナウイルス感染患者の治療や医療環境づくりの様子がNHK 総合テレビで紹介されました。

### (2) 日経新聞広告・地下鉄中吊り広告

奈良医大が医学知識に基づくコロナ対策無料相談を推進している取り組みを全国に広くお知らせするために7月20日、7月29日の2回、日本経済新聞の全国版に広告を出しました。また、9月7日からは都内地下鉄や山手線に同様の中吊り広告を出しております。



図：産学官連携によるICTを活用した見守り支援のイメージ

## パスファインダー第1回：研修医にお薦めの本

### 新シリーズ「パスファインダー」

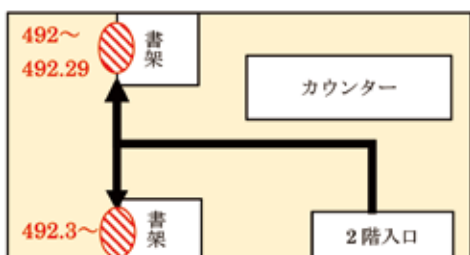
今回から新シリーズ「パスファインダー」を始めます。パスファインダーとは、道しるべのことです。このシリーズでは、毎回あるテーマを設け、そのテーマに沿った本や雑誌、その探し方を紹介します。

第1回のテーマは「研修医にお薦めの本」です。ある研修医の先生から「研修医向けの本を分かりやすく案内してほしい」という要望があり、今回の新シリーズスタートに至りました。

### 研修医向けの本ならまずは492がお薦め

図書館には対象者を限定したコーナー（ex. 研修医向け）はありません。ただ、図書館の本は日本十進分類法に基づいた分類番号順に並んでおり、これを知っておくと本が格段に探しやすくなります。特に研修医の方にお薦めしたいのが「臨床医学・診断・治療」を表す「492」の辺りです。「臨床医学総論：492」、「一般的な診断学：492.1」、「注射：492.21」、「輸液：492.26」、「抗菌薬：492.31」…と、臨床現場でまず必要な要素が「492」から始まる分類番号に集まっています。「492」の本が並んでいるのは図書館入って左側の棚です。棚の側面に分類番号を掲示していますので、「492」を見つけてください。

#### 【492へのルート】



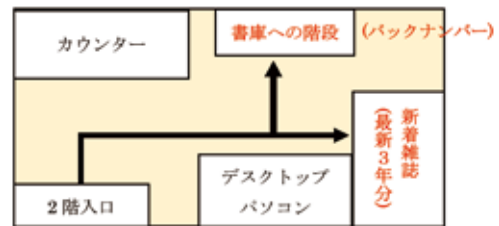
「492」から始まり、研修医に役立つような本は以下のとおりです。以下はほんの一例です。このほかにもたくさんありますので分類番号「492」に注目して書架を見に行ってみてください。

書名	請求記号
身体所見のメカニズム：A to Zハンドブック	492-Den
症状を知り、病気を探る：病理医ヤンデル先生が「わかりやすく」語る	492.1-Ich
安全・上手にできる注射マニュアル	492.21-Ued
輸液ができる、好きになる：考え方がわかるQ&Aと処方計算ツールで実践力アップ	492.26-Ima
よくわかる輸液療法のすべて	492.26-Kit
抗菌薬の考え方、使い方	492.31-Iwa
もっとねころんで読める抗菌薬	492.31-Yan

### 雑誌は別コーナーにあり

図書館の本は分類別に並んでいることと、もう一つ大事なポイントがあります。それは単行本と雑誌を分けて探すということです。単行本と雑誌は並べている場所が異なるだけでなく、その並び順も違います。雑誌はアルファベット順に並んでいます。（※あいいうえお順ではありません。）雑誌の書架は図書館入って右側、デスクトップパソコンの横になります。

#### 【雑誌コーナーへのルート】



研修医の方によく読まれる雑誌といえば、「レジデントノート」（雑誌並び：Rej）そして「Gノート」（雑誌並び：Gno）といったところでしょうか。どちらも図書館の雑誌コーナーにありますので、定期的にチェックしてみてください。最新3年分は2階、バックナンバーは書庫にあります。

### 冊子体だけでなく電子も

図書館の本は冊子体だけではなくありません。最近は電子ものも多く入っています。電子ジャーナルでは、「内科」、「Medicina」、「臨床検査」、「画像診断」など多くのメジャー誌がオンラインでご利用いただけます。電子ブックも毎年コンテンツ数を増やしています。

電子ジャーナル・電子ブックは図書館ホームページ上部の「電子ジャーナル」「電子ブック」から検索できます。例えば、電子ブックでタイトル「研修医」で検索するとタイトル中に「研修医」を含む電子ブックが出てきます。リンク先として出てくる「Maruzen eBook Library」または「Medical\*Online E-Books Library」をクリックするとご利用いただけます。図書館に直接来なくても、学内LANに繋がったパソコン（臨床研修センターのパソコンや、CAMPUS-NETに繋いだスマホ・タブレット）からも閲覧できるため、短い隙間時間でさっと読みたいときにおすすめです。

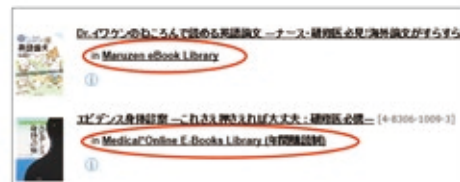
#### ①図書館ホームページ上部「電子ブック」をクリック。



#### ②キーワードを入力し、「Go」またはEnterキーを押す。



#### ③読みたい本のリンクをクリックする。



Maruzen eBook Library、医書.jp オールアクセス、メディカルオンラインはリモートアクセスも可能です。詳細は図書館ホームページ>オンラインリソース>出版社サイトをご確認ください。

<http://www.naramed-u.ac.jp/library/publisher.html>

パスファインダーを手に入れば、すぐに読みたい本にたどり着くことができとても便利です。パスファインダーに取り上げてほしいテーマがありましたら、図書館内のオピニオンボックスまたは [library@naramed-u.ac.jp](mailto:library@naramed-u.ac.jp) までお寄せください。お待ちしております。

# 国際交流センターだより

## 国際交流センターからのお知らせ

コロナ禍の影響により、今年度の海外リサーチ・クラークシップや海外からの臨床実習受入は、残念ながら中止になりました。「厳樞学術奨励賞（医学科同窓会による留学助成金）」や「若手研究者国際学会発表助成事業」は、現在募集を停止しています。今後、募集を再開する場合は改めて通知いたします。

昨年度は多くの海外からの臨床実習学生を本学附属病院で受入れることができました。ご指導賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。海外から本学に来られた研究者、学生の皆さんの「奈良医大滞在記」を是非ご覧ください。学内ホームページに掲載しています（学内ホームページ>国際交流センター>VOICE）。

## 〈2019年度 海外からの臨床実習受入学生実績〉

国名	大学名	臨床実習受入先
ドイツ (8)	・ルール大学 (2)	・腫瘍センター (2) ・消化器外科 (5) ・心臓血管外科 (3) ・産婦人科 (1) ・救急科 (1)
	・ハノーバー医科大学 (2)	
	・レーゲンスブルク大学 (2)	
	・マルティンルター大学 (1)	
	・シャリテ大学 (1)	
ニュージーランド (1)	・オタゴ大学 (1)	

\* ( ) 内は受入人数、学生により実習先が複数あり

## TOPICS: 海外リサーチ・クラークシップ成果報告

海外リサーチ・クラークシップ参加後に研究活動を継続している本学学生の研究成果が、共著論文として発表されました（未来基礎医学研究室所属）。ご指導を賜りました江浦信之先生（脳神経内科学）、伊藤宗一郎先生（口腔外科学）、岡村建祐先生（整形外科）をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

### ① Frontiers in Neuroscience

2020; 14: 538, 2020年6月26日 オンライン掲載  
Brainstem Organoids From Human Pluripotent Stem Cells  
坂口義彦 (医学科6年)、長田理瑚 (医学科5年)、米田朋矢、森川成孝、北吉史佳、鄭美栄 (医学科4年)

### ② Journal of Biological Chemistry

2020年7月16日 オンライン掲載  
Inhibition of the ATR kinase enhances 5-FU sensitivity independently of non-homologous end-joining and homologous recombination repair pathways  
坂口義彦 (医学科6年)、北吉史佳 (医学科4年)

### ③ Scientific Reports

10, 11748 (2020), 2020年7月16日 オンライン掲載  
RT-qPCR analyses on the osteogenic differentiation from human iPSCs: An investigation of reference genes 米田朋矢 (医学科4年)

## MESSAGE

国際交流センター副センター長  
**森 英一朗**  
(未来基礎医学准教授)



本学では、リサーチ・クラークシップで、2016年度から2019年度までの4年間で合計53名の学生を海外の研究施設に選抜・派遣してきました。参加者の多くは、プログラム参加後も学内の研究室に所属し、研究活動に取り組んでおります。海外リサーチ・クラークシップに参加した後も、本学での研究活動に取り組んできた学生達が、今回ご紹介する3報の研究論文に共著者として貢献・活躍しておりますので、ご報告させていただきます。2016年度に1期生として参加したメンバーは、現在6年生となり卒業後の進路について研究者としてのキャリアを視野に入れ思い悩んでいるようです。海外リサーチ・クラークシップを含めた本学の取組みが、少しずつ実を結びつつあるのを大変喜ばしく思います。

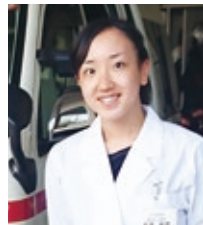
## ジャーナルに掲載されて

①医学科4年  
森川 成孝



脳幹オルガノイド（多能性幹細胞から作製する脳幹様の細胞塊）作製に関する論文の共著者として掲載していただきました。評価には多くのデータの統合が必要で実験・解析は困難な作業でしたが、その一員として携わせていただいたことを大変光栄に思います。ご指導いただいた江浦信之先生（筆頭著者・脳神経内科学）や森英一朗先生（未来基礎医学）をはじめとする共著者の先生方にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

②医学科4年  
北吉 史佳



私は、伊藤先生（口腔外科学）にご指導賜り、「ATR阻害による5-FUの効果増感の検討」に関わらせていただきました。研究の過程では、失敗も多かったですが、伊藤先生は常にわかりやすく、丁寧に、教えてください、うまくいかないときも優しくご指導くださいました。そのうえ、今回、このような素晴らしい論文に関わらせて頂き、大変有り難く思います。実験に取り組む姿勢はもちろんのこと、本当に人としても非常に尊敬でき、伊藤先生のようになれるよう、自分もこれから、森先生のご指導のもと、未来基礎医学教室で引き続き研究に取り組んでいきたいと思っております。

③医学科4年  
米田 朋矢



今回掲載の論文は、ヒト多能性幹細胞(iPS細胞)の骨分化実験におけるReference geneの検討という内容になります。私は、iPS細胞の骨分化実験の確立に携わせて頂きました。筆頭著者の整形外科教室・岡村先生が骨分化中の各遺伝子の発現量を定量した際にその数値が変動するため、実験方法を再検討した結果、Reference geneの変動に原因があるとし、骨分化実験に適したReference geneの検討を行ったのが本論文となります。この度ご教示頂きました、稲垣先生、岡村先生、始め整形外科教室の皆様、並びに森先生始め未来基礎医学教室の皆様、誠に有り難うございました。

# 看護部の紹介

## DMAT 隊員として

### 中央内視鏡部 竹村 佑子

私が DMAT 隊員になりたいと思ったきっかけは東日本大震災です。その時は医療者として何もすることが出来ず歯がゆい思いをしました。

数年後、部署の災害委員に任命され災害時の対応や災害医療について勉強し昨年度は災害支援ナースの登録を行いました。令和 2 年 1 月に念願が叶い DMAT 隊員養成講座を受講し DMAT 隊員となりました。

現時点では DMAT 隊員としての活動は出来ていませんが災害派遣だけでなく奈良医大全体の災害対策に貢献できるように努力していきます。

### 高度救命救急センター ICU 東岡 里奈

近年多発している災害に対して漠然とした不安があり、今後災害時に看護師として自分にできることを考えたいと思い DMAT 隊員となりました。

養成研修を経て、突然発生する災害に対しての準備は、災害が起こっていない平時から周到に行っていくべきであると強く感じました。

今では災害拠点病院に所属している DMAT 隊員としての自覚と責任を持ち、災害時多数傷病者が運ばれてきたことを想定したトリアージ対応や、被災地派遣を想定した他県との合同訓練に参加し、院外で学んだ知識を院内の災害対策に活かせるように日々取り組んでいます。

### B 棟 7 階 寺澤 絵美

近年、災害が多発し、甚大な被害が出ています。私は、その状況を目にする度に心が痛み、自分にも何か出来る事はないかと考え、DMAT 隊員となる事を目標に、この病院に就職しました。目標が達成された今、災害発生時には 1 人でも多くの命を救う為、力になりたいと思います。被災し、辛い思いをされている方に寄り添い、お役に立ちたいと考えています。また備えも大切であり、災害訓練の際にも貢献できるように努めていきます。

### 中央手術部 藤盛 将光

部署における災害委員としての経験から、災害に興味を持ち昨年度 DMAT 研修に参加させて頂きました。

研修では、活動内容を具体的に学ぶ事により、災害時の DMAT 活動の重要性を理解でき、DMAT としての活動にやりがいを感じました。

今後は訓練や研修に積極的に参加し、災害について、さらに学習していきたいと思います。

また、まだ派遣された経験はありませんが、今後派遣される機会があれば、積極的に参加し DMAT のチームメンバーと協力し、被災された方々のために活動していきたいと思います。



新たな DMAT 隊員

# 先端医学研究支援機構だより

## 研究力向上支援センターからのお知らせ

### 1 8/6 科研費獲得セミナーを開催しました

科研費獲得支援事業の一環として、和歌山県立医科大学 産官学連携推進本部 URA・学長特命教授 倉石泰先生に、「科研費獲得のための研究計画調書作成法」と題し、申請書作成のテクニックに関してご講演をいただきました。倉石先生は、和歌山県立医科大学を始めとする医大の研究計画調書を調査され、採択の可否に影響を与えたポイントを分析されました。今回は、その貴重なデータをお示し頂きながら、採択されるための作成法についてご紹介をいただきました。会場やオンライン参加で科研費申請初心者からベテラン研究者まで大変熱心に耳を傾けていました。



和歌山県立医科大学 産官学連携推進本部 URA・学長特命教授 倉石泰先生

### 2 9/14 科研費応募説明会を開催しました

令和3年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました。

講演会は、ロバスト・ジャパン株式会社の矢野寛士氏に「科研費の特性と申請戦略」と題しご講演いただきました。最近の政策から見る科研費の動向や概況、また審査制度の変更による採択結果への影響、また研究計画調書作成にあたって、それぞれの項目に書くべき内容について、より具体的な事例を示しながら解説をいただきました。

当日は会場やオンライン参加を含めて、多数の参加がありました。併せてオンラインによる外部資金獲得講座も学内向けにご提供していますが、こちらは3月末まで視聴が可能となっています。



ロバスト・ジャパン株式会社 矢野寛士氏

### 3 若きトップサイエンティストの挑戦（リサーチストーリー）を掲載しています

([本学ホームページ](#)>[研究力向上支援センター](#)>若きトップサイエンティストの挑戦)

輸血部 診療助教 酒井 和哉

新しいインタビューシリーズがスタートしました。このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にもご紹介したいと考えています。第1回は、【Blood】(インパクトファクター 17.543) に論文が掲載された酒井先生に、研究内容や研究のプロセス、今後の目標などお伺いしています。今後も定期的にインタビューをしていく予定です。ご期待ください。なお、この内容は、研究力向上支援センターのHPに掲載されていますのでご覧ください。

### 4 科研費サクセスストーリーを掲載しています

([本学ホームページ](#)>[研究力向上支援センター](#)>科研費サクセスストーリー (学内のみ))

脳神経内科学 助教 七浦 仁紀

泌尿器科学 助教 堀 俊太

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 診療助教 伊藤 妙子

整形外科 (リハビリテーション科) 助教 石田 由佳子

看護学科 成人急性期看護学 助教 森脇 裕美

科研費に採択された方々にご協力をいただきお話を伺ってきました。これから科研費獲得に向けて挑戦される方々にとってヒントになるお話が満載です。ぜひ参考にしてください。また、ご登場いただいた方々の研究計画調書もご提供いただきましたので、こちらもダウンロードが可能です。なお、研究計画調書は、ご本人の希望により一部割愛している場合もございますので、ご了承ください。

研究力向上支援センターでは、この他、科研費獲得の虎ノ巻の冊子の発行など様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターのホームページでご紹介をまいりますので、よろしくお祈りいたします。

## 産学官連携推進センターからのお知らせ

産学官連携コーディネーター 中村 淳良

10月1日付で産学官連携推進センター・(兼)MBT研究所に産学官連携コーディネーターとして着任しました。前職では、製造業の開発業務および製造技術、事業と幅広く携わって参りましたが、初めての分野へのチャレンジとなります。これまでは企業の立場で大学との共同研究や産学官プロジェクトにも携わりましたので、微力ながらこれらの経験も生かして、MBTの構想や成果をさらに世に広めるとともに、奈良県立医科大学の発展にお役に立てるよう活動して参る所存です。いろいろな機会でお目にかかることがあると思います。その節はどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 未来への飛躍基金だより

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

今号は、看護学科生への支援についてご報告させていただきます。基金では、毎年看護学科生へ「看護学の基礎をしっかりと学び未来に羽ばたいて欲しい」という願いを込めて、実習用白衣及びシューズをお渡ししております。7月に行われた白衣授与式では、石澤看護学科長より基金からの授与であることが式の冒頭で学生たちへ伝えられ、新型コロナウイルスの影響の中で医療従事者としての現状とあり方、看護学を学ぶにあたっての心構えなどのお話をされました。学生たちは最初から最後まで熱心に話を聞いていました。



白衣授与式の様子

## お知らせ

### ●紺綬褒章に係る公認団体の認定について

令和2年8月28日付けで公立大学法人奈良県立医科大学は褒章条例に関する内規第2条に基づく公益団体として認定されました。これにより、個人であれば500万円以上、団体（法人格を持たない団体含む）であれば1,000万円以上を基金にご寄附いただいた場合、紺綬褒章授与の対象となることがあります。

詳細は総務課 基金推進係までお問い合わせください。



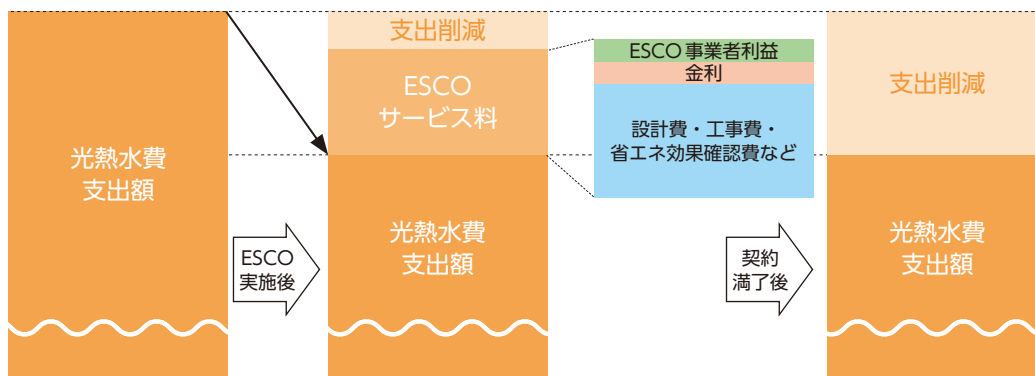
奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL : 0744-23-9973 (直通) E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

## 本学におけるESCO事業について

ESCO (Energy Service Company) 事業とは、設備改修にかかる費用を効率の良い設備に更新する等による光熱水費の削減分で賄う事業です。ESCO事業者は、省エネルギー診断、設計・施工、運転・維持管理、資金調達などにかかる全てのサービスを提供し、省エネルギー効果の保証を含む契約形態（パフォーマンス契約）をとることにより、顧客の利益の最大化を図ることができるという特徴があります。

本学では今回これを活用し、老朽化した設備の更新を実施する予定で、令和2年6月15日より公募を開始し、10月末に最優秀提案者を決定しました。

なお、本事業は、大学及び附属病院施設を運用しながら工事を行うため、皆様にはご不便を掛けることもありますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。



詳細は以下のURLをご覧ください。

[http://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/esco\\_jigyo/esco\\_jigyo.html](http://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/esco_jigyo/esco_jigyo.html)



## The Virtuous Cycle: 奈良県立医科大学で「人を思いやる心とコミュニティ精神」を育む文化がどのように育成されたか

This is the story of how a little kindness contributed to a groundbreaking nationwide English program to connect and support medical students in a time of crisis.

2020年、世界的なパンデミックにおいて、日本中の大学講師陣は、どのように意味のある、コミュニケーションが取れる授業を行えるか必死で考えていました。そのような折、本学医学科6年、田中俊志、齊藤正一郎、藤中加奈の3名が、全国の医学生を結びサポートするオンライン英会話グループ、English Chatting Group (ECG) を始動しました。

本学学報73号及び医学教育51号No.4にも、この活動 (ECG) の成功について、既に学生からの視点で掲載されていますが、この機会に「奈良医大の人を思いやる心とコミュニティ精神を育む文化」について別の視点から着目したいと思います。

2015年4月、本学に就任した私は、学生同士の先輩が後輩に食事を奢る頻度や、週4日から5日のクラブ活動、多数の学生が同級生だけでなく、前後の学年の先輩、後輩の氏名を覚えていることなど、学生同士のつながりの深さに驚きました。

日本最大規模の大学の一つである京都大学から就任した私にとって、このような結束の強い大学で働くことは、全く新しい経験でした。

過去5年間、臨床英語講座 (DoC English) は、この文化に貢献するように努めました。一日目から、文字通りにも比喩的にも、学生に向け講座の扉を開け招いてきました。

講師達と学生が人間関係を築くことは、たとえ権威ある日本の大学においても難しく、また珍しいことです。しかし、細井学長の奈良医大を臨床英語教育で日本一にというビジョンに従って、授業のレベルと目標が上がリ、学生が講師らと気軽に英語で、休憩時に廊下や昼食時のゼミ室にて話す姿が見受けられます。

臨床英語講座 (DoC English) は、3名の常勤講師と5名の非常勤講師からなる規模の小さな講座です。当初から先輩医師や看護師、またOB、OGからのお力添え (貢献) に頼って参りました。

これらのお力添え (貢献) は、奈良医大では恒例であり様々な形でなされて来ました。

数名の医師や教授らは、自分達の昼食休憩時間を割いて、私達の英会話グループに参加して下さい、また英語での問診、身体診察の方法を

臨床英語 教授 Bolstad Francesco

夜遅くまで学生に講義して下さいました。またOBやOGからの寄付により、本講座は英語でのファースト・エイド&リスポンダー・トレーニングを日本と海外で実施でき、これまで数十名の学生が留学出来ました。

今年4月、私達は初めて講座の扉を閉める苦しい決断をしました。対面式からオンラインへの移行によるプレッシャー、また学生との至近距離によるコロナウイルスの拡散リスクを考慮し、学生が卒業するのに必要な (必修科目) 授業を提供することに集中するよう、定例のランチタイム英会話 (スピーキング・デイリー・アクティビティ) や夜のアドバンスド・イングリッシュ・クラスを断念しました。これはとても厳しい決断であり、そして簡単なものではありませんでした。

しかし、私達の心配をものともせず、数ヶ月間 (短期間で) (私達の) 優秀な学生3名が、オンライン英会話グループ English Chatting Group (ECG) を立ち上げてくれました。彼らは英語を通して、本学の1年生と先輩を結び機会を与えるだけでなく、他の医科大学の学生にも交流の機会を提供するに至りました。

この活動を立ち上げた素晴らしい3名の学生においては、過去5年間、本講座 (DoC English) が提供してきた海外や日本における、ほぼ全てのプログラムに参加してきたことを誇りに思います。

In times of hardship collaboration and generosity are the keys to resilience and I'm proud to work for a university which fosters these values.



2020年10月現在、ランチタイムチャット及びアドバンスド・イングリッシュクラスはオンラインで開講中です。  
本講座HPでもご確認頂けます。 <https://nmudocenglish.wixsite.com/website>



## 7.2 MBT について取材を受けました

細井理事長・学長は、MBT 連携企業の大和リース株式会社から社内広報誌の取材を受けました。

大和リース株式会社とは、この度のコロナ渦における予防対策としてコロナ疑い患者とその他の患者の動線を完全に分離する「MBT 発熱外来ユニット」を共同で開発しました。

インタビューでは、MBT 構想に至った経緯や、上記ユニットについて、また MBT の今後の展望が取材されました。なお、社内広報誌は 12,000 部発行され、取引先等にも配布されるなど、全国に MBT 構想の取り組みが広まるものと期待しています。



インタビューを受ける細井理事長・学長

## 7.21 MBT 特命教授の称号式を挙行了しました

MBT 特命教授は、MBT の目標である、産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方等に称号を授与するものです。

今回、初めての授与として、MBT 特命教授を受けたダイソー株式会社の創業者である矢野博丈会長に授賞式を執り行いました。

今後、MBT 構想の発展に貢献していただけることを期待しています。



左：細井理事長・学長 右：矢野博丈 MBT 特命教授

## 7.29 新型コロナ不活化の試験や コロナ対策・企業相談を推進！

本学と MBT コンソーシアム「MBT コロナ不活化分科会」は共同で、オゾンガスによる新型コロナウイルス不活化の報道発表後、全国から 90 社以上の共同研究の依頼がありました。

また MBT コンソーシアムの「MBT コロナ対策・企業相談分科会」では、コロナ対策の企業個別相談を展開しております。

奈良医大と MBT 会員企業との連携で、様々な新型コロナウイルス感染症対策を行っていきます。



様々な新型コロナ対策を討議

## 8.4 看護学科オープンキャンパス 2020 を Web 開催しました

毎年夏季に開催し、多くの参加者で賑わう看護学科のオープンキャンパスですが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ホームページにおける動画配信で開催しました。

嶋副学長から開催のご挨拶をいただき、石澤看護学科長からは「看護学を学びたいと思う人へ」というテーマで、「看護と看護学」、「看護職の役割」、「本学の取り組み」についてお話しいただきました。

また川上看護教育部長からは、学科紹介と入試概要について、本学の特徴や強みをわかりやすくご説明いただきました。

そして今年の模擬ミニ講義は、成人慢性期看護学の田中教授に「『がん』を正しく知ろう！」をテーマに、身近に潜む「がん」という病気、またがん治療における看護の役割について講義していただきました。

動画は、本学ホームページでどなたでも視聴可能です。ぜひご覧ください。



副学長挨拶

看護学科長講演

## 8.28 MBT 発熱外来と3感染ルート遮断の取り組みを進めます

MBT 研究所では、MBT コンソーシアム MBT コロナ不活化分科会と共同での、コロナ不活化の共同研究を取り組むとともに、MBT コンソーシアム MBT 感染症外来分科会と協力して、MBT 発熱外来の広報を行っています。今回、奈良市医師会が奈良市医師会館駐車場内に設置する感染外来ユニットの運用について報告を行いました。

今後、MBT では、新しいコロナ対策として、「3密回避」に加えてより本質的な「3感染ルート（接触、飛沫、エアゾル）遮断」を提唱し、附属病院を始め積極的な取り組みを行います。

奈良医大と MBT 会員企業との連携で、まだまだ続く新型コロナウイルス感染症の様々な対策を行っていきます。



新たに「3感染ルート遮断」を提唱

## 8.29 薬局で「MBT からだ測定会」を開催しました

暮らしやすい「まちづくり」のため、ウエルシア薬局 奈良南府塚店「ウエルカフェ」で「MBT からだ測定会」が開催しました。

MBT 研究所の梅田副所長が地域住民の方に健康とまちづくりをテーマとして、日頃から健康づくりを意識し自分らしく健康的な生活ができるようにアドバイスをしました。

また、ウエルシア薬局 橿原中曾司店「ウエルカフェ」にて MBT 研究所との健康ステーションを毎週第 2 土曜日に行っていますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



健康アドバイスをする梅田副所長



からだ測定の様子

## 8.31 自衛消防・防災隊訓練を実施しました

今年度第 1 回目の訓練は、災害発生時に自衛消防・防災隊がとるべき初期対応行動の確認訓練を実施しました。今年の 5 月に自衛消防・防災隊の組織を再編成し、班の分担、任務及び構成班員の変更を行った経緯から、隊員各員の認識を新たにすること、また、活動の中核となる各班長の任務・責務の認識を持つことが主たる目的です。今回の訓練では、実際の災害現場を想定した無線通信を取り入れた消火訓練及び避難誘導訓練を実施しました。避難誘導訓練では、避難者に落ち着いて避難してもらうため、①自分たちはだれなのか②どんな災害がどこで起こったのか③どう避難するのか④危険はないのかを伝えることが重要であることを再確認しました。訓練を通して安全に避難してもらうためにどうすればいいか考える機会となりました。これからも継続的に訓練を実施していく予定です。



消火器による消火訓練



屋内消火栓による消火訓練

## 9.7 MBT コロナ対策企業相談 HP を開設しました

MBT 研究所では MBT コンソーシアムとともに、各企業のコロナ感染予防対策の相談を受け付けています。例えば、企業の事務所内における感染対策や、お客さんの出入りがある店舗、イベント開催時の感染対策のアドバイス等を行っています。全国の企業等から無料で受け付けており、現在、多くの問い合わせがあります。

このたび、専用のホームページを開設し、お問い合わせフォームを設けました。お知り合いの企業様でお困りの方がいらっしゃいましたらご案内していただければと思います。

「MBT 企業相談」で検索又は右の QR コードをチェック



## 9.11 第 19 回近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議に参加しました

本学を含む 12 大学が参加となる近畿・中部地区大学等知的財産連絡会議に参加しました。今年は新型コロナウイルス感染症に伴い、安全面を考慮してオンライン会議での開催となり、知的財産に関する課題、産学官連携活動に係る諸課題について、各大学等での問題点を議論しました。この議論の結果は今後の業務遂行に活用していき、産学官連携のさらなる発展に繋がっていきます。

9.10

## 北海道沼田町とMBT 包括連携協定書の交換を行いました

MBT 研究所は、本学発ベンチャー企業の MBT リンク株式会社及び北海道沼田町の取り組みに連携協力し、沼田町における地域活性化と人材育成及び学術の振興に寄与することを目的に、包括的な連携協定を締結しました。

沼田町内の住民施設「暮らしの安心センター」で、MBT 研究所の細井裕司所長、MBT リンク株式会社の梅田智広代表取締役社長及び沼田町の横田茂町長が協定書の交換式を行いました。今後は、沼田町内で ICT を活用して高齢者の見守り支援事業などを行っていきます。

交換式には多くの報道陣が参加し、細井所長は、医学の研究は製品となって広く世界中の人々に届かないと完成しないと述べ、医学の知識を日々の暮らしに役立てる大切さを訴えました。梅田社長は MBT 活動の紹介及び高齢化社会における MBT の重要性、沼田町での ICT を使った高齢者見守り支援事業の内容等を説明し、沼田町長は、今後、高齢者の共同住宅を作る際の設計に盛り込みたいと期待を述べました。



交換式の様子

支援事業は9月から来年3月まで実施します。専用の「腕時計型生体デバイス」などで血圧や心拍、体温、歩数などを毎日計測するとともに、遠方の親族が無料通信アプリ「LINE（ライン）」で把握できるようにして、「見守り」を支援します。



報道陣に説明をする梅田社長

今後、3者が協力して、高齢者の見守りシステムの確立を始めとする町民の健康増進と町内での医療産業の創出を目指します。MBT 研究所と MBT リンク株式会社は、沼田町が空き家対策として北海学園大学と共にリノベーションした民家をサテライトとして活用し、まずはシステムの確立に向けた高齢者の医療データの収集を始めます。



MBT 研究所サテライト

MBT の取り組みは、全国に広がっています。今後も活発に MBT 活動を続けていきたいと思っています。

9.15

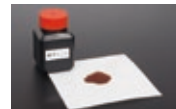
## 柿渋のコロナ不活化研究成果を発表しました

本学は、世界で初めての柿タンニン（柿渋）による新型コロナウイルスの不活化を確認しました。また、その不活化の条件を実験的に明示することで実用性についても学問的に明らかにしました。

9月15日には、この成果について、奈良医大で、免疫学 伊藤利洋教授、微生物感染症学 矢野寿一教授及び細井理事長・学長が出席し、記者発表を行いました。

研究成果は、奈良にゆかりのある柿の成分が新型コロナに効くというすばらしい発見であり、当日は、報道機関約 20 社が会場に駆け付けました。研究者から、研究成果の概要説明があり、細井理事長からはその成果を世界中の方々へ届けるため製品化に協力する企業を募集すると発表がありました。

記者からは、その成果について多くの質問があり、改めて世間の関心が高いことが分かりました。発表の様子は早速テレビ等で全国に発信され、たくさんの問い合わせをいただいています。今後も新たな研究成果を全国に発信していきたいと思えます。なお、この研究成果については、特許出願を行っています。



柿タンニン



記者会見の様子



研究室にて

多数のマスコミの取材を受けました

9.29

## 奈良先端大との連携活性化委員会を開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学との連携協定に基づき、定期的に、連携活性化に向けた委員会を開催しています。今回の開催は、奈良先端大で実施し、互いの学生の交流方法や、両大学間での特別講義の実施、共同研究助成事業の報告会について検討を行いました。また、両大学の共同研究助成事業については、助成された研究者が、国等の大型補助金の獲得もあり、来年度も実施する方向で話が進みました。今後実施を進めていきますのでご参加をお願いします。



連携活性化委員会の様子

9.24

## MBT 発熱外来ユニットが完成しました

奈良市医師会が奈良市医師会駐車場敷地に奈良市立休日夜間応急診療所の発熱外来棟として、「MBT 発熱外来ユニット」を完成させ、9月28日からの運用開始前に、報道関係者に公開され、多くの報道機関の取材がありました。今回の設置は、本学とMBT コンソーシアム MBT 感染症外来分科会が協力し、広報を行い、奈良市医師会が「MBT 発熱外来ユニット」を採用したものです。

報道関係者への公開の後、感染症センターの笠原敬センター長が、現地で、奈良市医師会、奈良市立休日夜間応急診療所の医師や看護師の方々に、感染症対策の詳細な指導助言を行いました。

今後も本学とMBT コンソーシアムとが連携し、全国に様々な新型コロナウイルス感染症対策を行っていきます。



笠原敬感染症センター長の指導助言の様子



MBT 発熱外来ユニット

9.29

## 柿渋の共同開発事業やコロナ対策・企業相談を行っています

MBT 研究所では、柿渋による新型コロナウイルス不活化の報道発表後、柿渋製品化の共同開発事業への問い合わせや企業から共同開発の依頼が多数寄せられており、また、MBT コロナ対策・企業相談では、重要なイベントや伝統行事での相談もあり今後どの様に進めていくか論議しました。

新型コロナ対策で、全国規模において医学の知見が必要となっており、奈良医大とMBT コンソーシアムが連携し様々な新型コロナ対策を打ち出していく中、本学 MBT の役割は大きくなっています。これからも、MBT を通じた社会貢献を推進します。



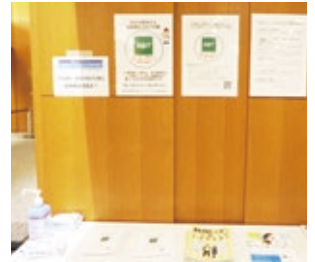
柿渋製品化の共同事業やコロナ対策・企業相談なども討議

9.30

## MBT 研究所が3 感染ルート遮断の新型コロナ対策を支援しました

日本経済新聞社から相談を受け、ハービスホール（大阪梅田）で開催する日経ウーマノミクス 2020 において、本学感染症センター 笠原センター長やMBT コンソーシアム感染症部会の指導のもと、3つの感染ルート遮断（飛沫、接触、エアロゾル）の新型コロナウイルス感染症予防対策を行いました。会場では、MBT コロナ対策を実践して頂いている証としてポスターやステッカーを掲示しました。

現時点では、コロナウイルスの終息の見込みがない状況ではありますが、MBT の取り組みで社会に貢献できるよう今後も取り組めます。



MBT の提唱する3 感染ルート遮断



イベントの様子

10.1

## 実験動物慰霊祭を執り行いました

実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すため、実験動物慰霊祭を執り行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止対策として参加者の安全面を第一に考慮し、関係者のみで執り行うとともに、慰霊祭の様子を学内向けにライブ配信しました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。代替的手段がなく、やむをえず動物実験を行うときは、動物愛護の観点から、動物への苦痛を軽減し、さらに犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。そして、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



関係者による黙祷



献花の様子

## Winner Report

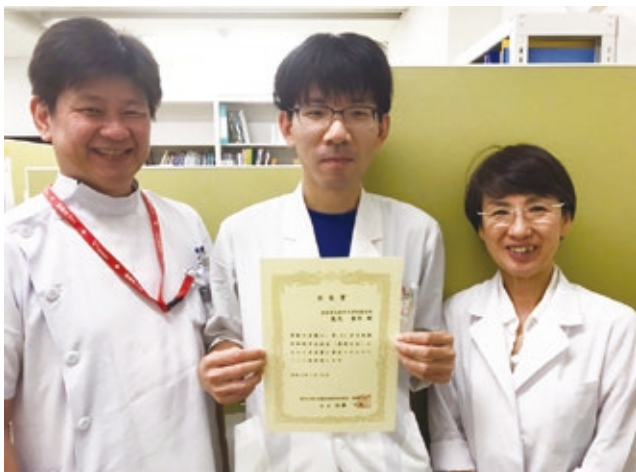
5.19  
～ 22 欧州消化器腹部放射線学会 (ESGAR) において  
Recommended posterを受賞しました

放射線医学 医員 南口 貴世介

この度、令和2年5月19日から22日に開催されました欧州消化器腹部放射線学会 (ESGAR) において Recommended poster を受賞させて頂きました。演題名は「Multistep carcinogenesis in abdominal tumors : what radiologists should know」です。腹部領域における悪性腫瘍の前癌病変に焦点をあてており、早期発見に適したモダリティや発癌機序についてまとめた演題となっています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により Web での開催となりましたが、このような賞を頂くことができ大変嬉しく思っています。受賞に際しまして、ご指導頂きました丸上先生に感謝申し上げます。

6.20 第61回日本臨床細胞学会春期  
大会で会長賞を受賞しました病理診断学講座 医学研究科博士課程2年 龍見 重信  
(病院病理部 技師)

第61回日本臨床細胞学会春期大会(2020年6月20日からWeb開催)で発表した「パピニコロウ染色の精度管理への試み～色の数値化による日差管理図作成～」で、会長賞を受賞させて頂きました。細胞診分野での染色性の精度管理は、従来、主観的に行われていましたが、今回、客観的な精度管理システムの構築に着目しました。本発表にあたり、ご指導を賜りました大林千穂教授、西川武副技師長、ならびにご協力頂きました多くの方々にお礼申し上げます。本受賞を励みに、今後も研鑽を積んでいきたいと思っております。

7.11 第21回日本検査血液学会学術集会  
にて優秀演題賞を受賞しました

輸血部 助教 早川 正樹

第21回日本検査血液学会学術集会にて優秀演題賞を受賞いたしました。肺血栓塞栓症に出血性疾患である後天性フォンヴィレブランド症候群が合併する臨床研究について発表しました。時同じくして院内の重症新型コロナウイルス感染症に対する体外式膜型人工肺 (ECMO) 症例においても合併例を発見し学術誌に報告することもできました。ご指導賜りました松本雅則教授、共同研究者の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

8.9  
～ 10 第5回日本がんサポーターケア学会  
学術集会で優秀演題賞を受賞しました分子病理学 博士研究員 森 拓也  
川原 勲

このたび、第5回日本がんサポーターケア学会学術集会において、優秀演題賞を受賞しました。日本がんサポーターケア学会は支持・緩和医療領域の基礎・臨床研究の促進を目指し2015年に設立された学会で、現在会員数は1200名です。今回の学会は緩和医療学会および日本サイコオンコロジー学会との共催で数千人の参加が見込まれていましたが、新型コロナウイルス感染のためWeb開催となりました。森先生の発表演題は、「癌誘発性サルコペニアは癌関連炎症性サイトカインであるHMGB1が関与する」で、癌性筋萎縮の発生に癌細胞が分泌するHMGB1が関与することを示した研究です。川原先生の発表演題は、「カヘキシアモデルマウスへのアミノ酸投与が骨格筋と腫瘍に与える影響」で、癌性筋萎縮に健常人では筋肉増強効果のある分枝鎖アミノ酸は有効ではなく抗酸化作用を有するシスチン・テアニンが有効であることを見出した研究です。2人は優秀演題受賞のためWebで口演を配信しました。今後も研究活動を続けてますます活躍されることを期待します。

(分子病理学 教授 國安 弘基)



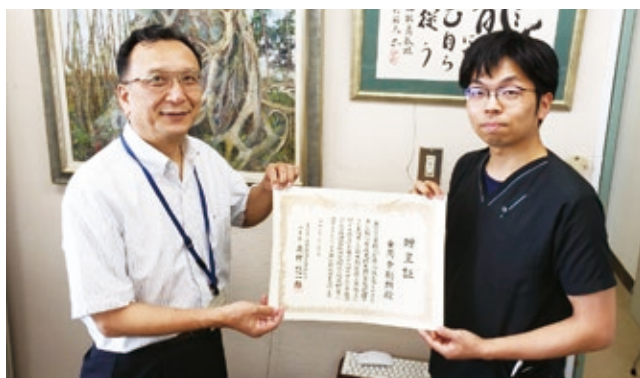
# Winner Report

8.20

## バイエル循環器病研究助成を受賞しました

循環器内科学 大学院生 金岡 幸嗣朗

この度、「医療・介護レセプトデータを用いた、脳・心・腎疾患終末期の実態把握と終末期医療の質向上に対する提言」を研究テーマとして、2020年度バイエル循環器病研究助成を受賞しました。本課題では、心血管疾患等における終末期の医療・介護の実態を明らかにすることを目指しています。本受賞を励みとし、今後も研究を行っていき所存です。ご指導いただいております、斎藤教授、今村教授をはじめ、多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



8.27

## 第49回日本IVR学会総会 Featured Abstract Award

放射線医学 准教授 田中 利洋

2020年8月に神戸ポートピアホテルの現地とWebのハイブリッド開催で行われた、第49回日本IVR学会総会でFeatured Abstract Awardを受賞しました。発表内容は、「切除不能大腸がん肝転移に対するイリノテカン溶出性ビーズを用いた肝動脈化学塞栓療法(TACE)の臨床試験の結果」です。3密を避けるために距離をとっての表彰式となりました。

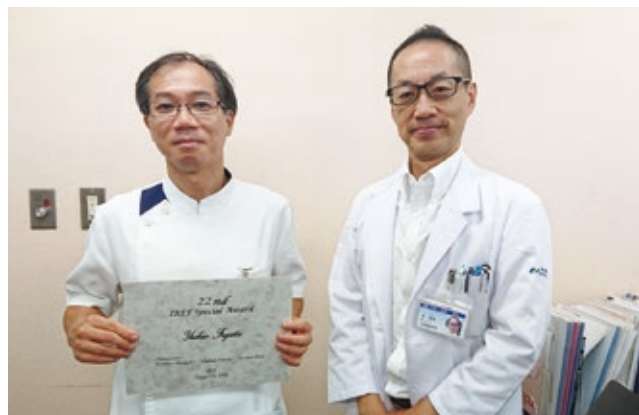


8.29

## 第22回 IREF で Special Award を受賞しました

呼吸器内科学 助教 藤田 幸男

この度、2020年8月29日に開催されました『第22回 IREF』において、「呼吸不規則性指標を用いた慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の病態評価」がSpecial Awardを受賞しました。呼吸のリズムを客観的に評価した呼吸不規則性指標が、COPDの新たな評価法になり得ることを報告した臨床研究です。今回の受賞を励みとして、今後も臨床研究に励む所存です。本研究にあたり御指導を賜りました室繁郎教授、ならびにご指導・ご協力頂きました多くの先生方に深く御礼申し上げます。

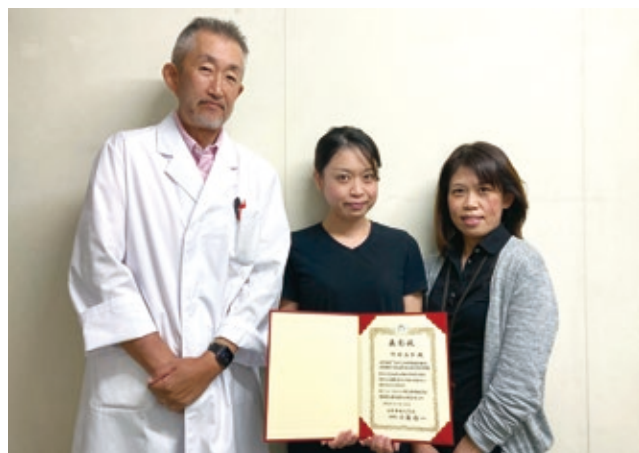


9.10

## 日本神経化学会奨励賞を受賞しました

第二解剖学 助教 竹村 晶子

この度日本神経化学会奨励賞を受賞しました。脳の中でも血液脳関門を持たない脳室周囲器官という部位の研究を通じて、脳と全身が血液を介してどのように情報交換をしているのか解明していきたいと考えています。日頃の研究室の先生方のご指導、ご理解と女性研究者・医師支援センターのご支援に感謝申し上げます。



9.24

## 第27回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

今回の受賞者は精神医学の牧之段学准教授、脳神経内科学の竹島靖浩助教の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金を授与しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、関係者のみの出席で行い、その模様については、オンラインでの同時配信しました。表彰式後、牧之段学准教授が「小児期体験が形づくる脳回路と精神疾患」、竹島助教が「脳静脈還流障害の病態研究」と題して講演を行いました。この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



講演の牧之段学准教授 講演の竹島助教



前列：左より吉川病院長、牧之段学准教授、細井学長、竹島助教、嶋医学部長  
後列：左より吉栖研究部長、岸本教授、中瀬教授、西浦総務・経営理事

9.24

## 第9回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

当賞は、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設しました。

今回の受賞者は、病理診断学講座の内山智子助教で、授賞式にて賞状、記念品の楯及び研究奨励金を授与しました。

授賞式後、内山助教により「睡眠時無呼吸症候群のインスリン抵抗性発現の分子機構の解明」と題した講演を行いました。



講演の内山助教



前列：左より吉川病院長、細井学長、内山助教、嶋医学部長  
後列：左より吉栖研究部長、大林教授、西浦総務・経営理事

The donation person name

## 寄附者ご芳名

### 「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和2年9月までに累計2,991件のご寄附を申出いただいております。

なお、今号では、令和2年7月～令和2年9月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

#### 【個人】

#### ◆30万円以上100万円未満

亀田 陽一 様 下川 充 様 細井 裕司 様  
宮田 重樹 様 渡邊 愛子 様 渡邊 巖 様  
鄭 致元 様 掲載を希望されないご寄附者様 4名

#### ◆10万円以上30万円未満

金森 正明 様 川上あずさ 様 酒井 宏水 様  
土井 涉 様 土岐 美智 様 永淵 昭良 様  
八田 一郎 様 坂野 公彦 様 牧之段 学 様  
峯 克彰 様 掲載を希望されないご寄附者様 5名

#### ◆10万円未満

安藤 幸 様 生駒 利夫 様 岡田 定規 様  
桑原 弘純 様 服部 真紀 様 浜崎 直樹 様  
掲載を希望されないご寄附者様 9名

#### ◆金額の公表を希望されないご寄附者様

岡崎 愛子 様 加輪上浩之 様 洲脇 直己 様  
長田 憲和 様 西 真弓 様 福住 明夫 様  
吉治 仁志 様

ご寄附のお申し込みをいただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

## 令和3年度 入試日程【医学部】

大学入学共通テスト実施日 (第1日程) 令和3年1月16日(土)・17日(日) (第2日程) 令和3年1月30日(土)・31日(日)

学 科	入試区分	募集定員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表 (予定)
医 学 科	推 薦*1	38	令和2年12月15日(火)～12月18日(金)	令和3年2月6日(土)・2月7日(日)	令和3年2月16日(火)
	前 期	22	令和3年1月25日(月)～2月5日(金)	令和3年2月25日(木)・2月26日(金)	令和3年3月9日(火)
	後 期	53		令和3年3月12日(金)・3月13日(土)	令和3年3月22日(月)
看 護 学 科	推 薦*2	35	令和2年11月2日(月)～11月4日(水)	令和2年11月22日(日)	令和2年12月8日(火)
	前 期*3	50	令和3年1月25日(月)～2月5日(金)	令和3年2月25日(木)・2月26日(金)	令和3年3月9日(火)
	後 期		実施しません		

\* 1 医学科学校推薦型選抜は緊急医師確保特別入学試験 13名と地域枠入学試験 25名を実施します。

\* 2 看護学科学校推薦型選抜は地域枠のみ募集します。社会人特別選抜試験は、平成31年度入学試験をもって廃止しました。

\* 3 看護学科一般選抜(前期日程)は、一般枠40名と地域枠10名を募集します。

詳しくはホームページで確認してください (<http://www.named-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科の学校推薦型選抜学生募集要項は9月中旬から配布中です。医学科学校推薦型選抜学生募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

## Media Listing Information

### メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2020年	7月30日	NHK 奈良 ならナビ	新型コロナウイルスに対する本学の取組の一部を紹介
	7月31日	Medical Tribune	小 児 科 学 准 教 授 野 上 恵 嗣 血友病治療の患者負担が大幅に改善。日本血栓止血学会でパラダウムシフトを解説
	8月1日	毎日放送 医のココロ	泌 尿 器 科 学 教 授 藤 本 清 秀 尿がでにくいという症状の原因と治療法
	9月8日	産経新聞	感 染 管 理 室 感 染 管 理 認 定 看 護 師 中 村 明 世 県内理容師に感染対策について講演
	9月19日 9月26日	毎日放送 医のココロ	感 染 症 セ ン タ ー セ ン タ ー 長 笠 原 敬 新型コロナウイルスとどう付き合うか
	9月10日	NHK 奈良 web	感 染 症 セ ン タ ー セ ン タ ー 長 笠 原 敬 精神科医対象の感染対策研修会実施
	9月9日	奈良テレビ	県立医大生が「心のバリアフリー」を学ぶ
	9月1日	m3	共同研究で水道水を電気分解し生成した除菌液でコロナ不活化
	9月12日	読売新聞他5社	M B T 研 究 所 副 所 長 梅 田 智 宏 ICTを活用し高齢者の見守りシステムを確立
	9月16日～	NHK、奈良新聞他36社	免 疫 学 教 授 伊 藤 利 洋 微生物感染症学 教 授 矢 野 寿 一 柿渋による新型コロナウイルス不活化について
	9月25日	CBC チャント!	脳神経外科学 病院教授 朴 永 銖 乳児揺さぶり症候群にコメント
	9月25日	m3	理事長・学長 細井 裕 司 3密より本質的な「3感染ルート遮断」の啓発を提唱
	9月28日	日本経済新聞	感 染 症 セ ン タ ー セ ン タ ー 長 笠 原 敬 新型コロナウイルス対応～医療現場の声～

### 編集後記

学報74号も皆様からのご協力をいただき発行することができました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。「学報」では、職員の皆さんからの学会等での受賞報告の他、学生の共著論文のジャーナル掲載等随時募集しておりますので、秘書・広報室まで連絡をお願いします。

